



資料 令和2年度 松川高校の重点的教育活動の取り組み（4月～11月）

今年度の重点目標5項目（①～⑤）に関する今年度の具体的な取り組みを、各項目につき数点示しました。

学力の向上・授業の充実に関する重点目標（中長期的目標）：

自立的規範意識を身に付けさせ、確かな学力を養うとともに、豊かな心で総合的な生活力を持った生徒を育成する。

①生徒が個人として尊重され、安心・安全で活力ある学校生活を保障する に関わる取り組みとして

I：コロナ禍の中、運動部も文化部も全国大会が中止となったが、種目によっては代替大会が行われ、特に野球部がシード校である強豪私立高校を破る活躍を見せ、学校でも大いに盛り上がった。最上級生にとっては、満足のいく締めくくりにはならなかったものの一つの区切りをつけ、次の目標に進むことができている。また、地域や松川町と連携しながら東日本大震災への継続的な支援などに取り組んでいる生徒会やボランティア部は、今年度は今までと形を変えて活動を行った。生徒会では、昨年の台風被害に遭った長野市内の小中学校に花を届ける活動を行い、ボランティア部は、東北に花を送る活動と共に、毎月「満蒙開拓平和記念館」で高校生展示ガイドや語り部の体験談の書き起こしを行った。それらの活動が評価され「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」において内閣府特命担当大臣表彰を受賞した。

II：災害や列車の運行変更等の緊急連絡を生徒・保護者へ届けるための「安否確認・連絡網システム オクレンジャー」を運用した。また職員間の密な連携や会議の精選のための「校内Web」（掲示板）の設営などにより、確実かつ迅速な情報の共有化を図った。

②基礎学力の定着と、探究的学力の伸長を図る授業づくりをすすめる に関わる取り組みとして

I：入学時より、英語ではマナトレを導入し、小中学校でつまづいた部分を「学び直し」することによって基礎学力の定着を図っている。また、「基礎力診断テスト」を実施することで、進学者の学力向上はもちろん、就職希望者にも基礎学力の重要性について意識を高めることができた。さらに、各教科でキャリア教育の視点を意識した授業改革に努めたり、総合的な探究の時間やロングホームルームを利用してよりよい進路実現に向けて学習や説明会等を行った。今後、1学年キャリアデイのまとめとして「総合的な探究の時間」でパワーポイントを使用した発表をおこなうことになっている。更に、就職・進学決定者に対し、卒業後の学力保障のための個別補習を実施している。

II：3年課題探究エリア「環境緑化」では穀物（ジャガイモ、トウモロコシ、サツマイモ、落花生、そば）と野菜（トマト、ナス、カボチャ、ズッキーニ、大根、チンゲン菜、ほうれん草）を栽培・収穫し調理した。また、校門前の花壇作りを行い、学校の環境緑化に貢献することができた。1月には収穫したそばを使って“そば打ち”を行う予定。

III：3年課題探究エリア必修「食文化」では、調理実習実施にコロナ対応による制限があり例年のような実習はできなかったが、実施方法を工夫して学習内容の充実を図っている。2年課題探究エリア必修「キャリア探求」では、図書館やタブレットを利用して、個人又はグループで課題を設定し、情報を収集・分析、まとめて発表をする探求学習を繰り返した。発信方法については手書きポスターやパワーポイント、Wordを利用したデザインポスター、ロールプレイ（寸劇）など様々な方法で行い、協働力や課題解決能力、表現力を養った。

IV：電卓検定、簿記検定、ワープロ検定、情報処理検定、英語検定、漢字検定などの資格取得に多くの合格者を出すことができた。「食文化」では、家庭科食物調理技術検定の実施にコロナ対応による制限がありできなかった。

V：2学期に「匿名性を担保した授業中間評価アンケート（生徒・職員）」を実施。各授業の評価と生徒自身の授業に対する取り組みについて全校生徒対象に実施し、授業担当者は授業を振り返る機会とし、授業改善に努めるとともに、生徒も自分の授業への取り組みを見つめ直す機会としている。

③生徒の個性と能力を伸長させるキャリア教育と進路指導を組織的に実践する に関わる取り組みとして

I：各学年で進路ガイダンスを実施し、3学年は進路実現に向けた実践力を養成し、1・2学年は自らの進路を考える機会を提供した。

II：1学年は進路別に大学・専門学校あるいは地元企業を見学し、2学年は進路ガイダンスを行い、今後の進路選択・進路実現のための考察の機会を提供した。

III：学力向上に向けて、休業中や朝・放課後の補習授業や個別指導及び模擬試験を計画、実施した。

IV：各学年の進路ガイダンスにおいて、外部講師による生徒向け講習を実施し、将来の職業選択についての理解・関心を深めるとともに、職業観や人生設計を考察する機会を提供した。

V：3学年の進路指導に関しては、新型コロナ禍のなか、ハローワークはじめ各種行政機関、各種進路指導外郭団体と連携し、生徒一人ひとりに対する細心かつ綿密な指導を展開してきた。

④生徒の主体的な活動を支え、自己肯定感を高め、生きる力を育む に関わる取り組みとして

I：生徒会では昨年度作成した「松高スマホルール3か条」を引き継ぎ活動してきた。また、「スマホルール」の取り組みがNHKに取り上げられ全国に放送され、自己肯定感を高めるきっかけとなった。全校ディスカッションについては、今年度はコロナの関係で一度しか行うことができなかった。しかし、「コロナ禍における文化祭のあり方」について全校で考える機会を作ることができた。主体性を養う場としてこれからも実行していきたい。また、各委員会活動も、松川高生が自分たちでよりよい学校生活を送るために、考え実行できるようにしていきたいと考えている。

II: 毎年行ってきた花の活動は、コロナによる休校の関係で大幅な変更を余儀なくされたが生徒達が「自分たちができること」を考えて活動した。主な活動内容は①昨年被災した長野市に花を届ける活動 ②松川町役場に花を植える活動 ③松川町の保育園に花を届ける活動 ④松川高校に花を植える活動の4点。来年度は松川町を花で溢れさせるような活動を主軸にし、主体的な活動にしたいと考えている。

III: 文化祭は予定を変更し、9月10、11日に行った。例年行っていた一般公開を中止にした為、昨年より日程が短く、規模も小さい文化祭となった。また、感染症のリスクを考慮し、グラウンドにステージを設置し、大部分のイベントを外で実施した。屋外にしたことにより熱中症のリスクが高まったが、リモートや休憩室を活用することによって無事終わることができた。二日間ではあったが、生徒達にとっては中身の濃い二日間となった。準備から本番まで、生徒達は様々な壁に立ち向かいながら、困難だと思われることを一つずつ解決していく経験を通して「主体性」や「生きる力」を身につけることができた。

IV: 1学期の「全校憲法学習」では、地歴公民科の授業の中で新型コロナウイルス感染症の社会的影響、偏見や差別のメカニズムと日本国憲法との関連について学んだ。また、2学期「全平和人権学習」では、「満蒙開拓平和記念館」館長を招聘し「戦後75年、満蒙開拓の史実から学ぶ～高校生へのメッセージ～」と題して講演会を実施。最多の「満蒙開拓団」を送出した当該地域の高校生として、今、何を学び後世へ伝えるべきか教示を頂き、平和や人権に対する思いを育むことができた。

V: 「中学生の体験入学」(10/31)では、生徒会役員が今年度からの全体会進行をはじめとして、例年のように準備・受付・案内を行うとともに、パワーポイントを使って学校生活の説明を行った。また、各エリア代表の3年生4名がエリアの説明と進路学習の体験談を発表。本校の魅力が伝わるよう生徒会が中心となり活躍する姿が見られた。参加した中学生からは、「学校生活の説明を生徒が主体で行っていてすごい。」とのアンケート回答が複数寄せられた。

VI: 職員によるJR乗車指導・駅におけるマナー指導及び文化祭後夜祭後の下校指導を実施。

⑤地域に開かれた学校づくりを進め、地域社会に貢献できる生徒を育成する に関わる取り組みとして

I: 本校ホームページにおいて生徒の日々の活躍の姿を生きた情報として発信した。また、中学生向けに「活動インフォメーション」(フルーツバスケット)を年3回発行、「学校要覧」の内容充実を図るなど開かれた学校づくりにつとめた。

II: 環境整備事業を9月5日(土)に保護者70人・生徒70人・教職員13人の参加で実施。今年はコロナ禍で多くの事業を実施することができなかったが、保護者の方には多くの関心をよせていただいた。11月には4地区でPTAブロック別懇談会を開催することができた。

III: 【生徒会】松川町の全保育園へ花を植えたプランターを届ける活動を行った。また、保育園の保護者の皆様に各家庭でも植えていただけようように花の配布を行った。コロナ禍の中での活動であったため保育園児さんとの交流ができなかったことが残念であった。また、例年行っている松川町役場花壇の花植え作業も休校中であったため町内花卉農家の協力を得て学校職員と役場の方々で実施した。【ボランティア部】9年目となる東北支援継続活動「花という笑顔を東北へ」は、今年度からボランティア部独自の活動となった。また、石巻市への支援交流活動としての「リングと花・絆プロジェクト」は東北を支援する松川町民有志の会、松川町等の地域の皆様方のご協力を得ながら10年目を迎えた。

今年度はコロナ禍で活動が制限されたが、町内の業者や松川町の協力を得ながら3月より準備、6月に石巻市、女川町、南相馬市などへペチュニアの苗600株を贈ることができた。また1200株のペチュニアは町内の小中学校、役場、公民館、社協などで町民の方々と一緒に植えることができた。12月の「被災地へ届けるりんご1箱キャンペーン」は毎年りんご農家を生徒が1軒1軒回り協力を得ている。今年度も松川町役場と連携して活動を行う予定。また、「りんご農家さんのお手伝い」も継続、地域の方々との温かいふれあいが生まれている。

「満蒙開拓平和記念館」では高校生展示ガイドの活動が制限される中、語り部の方の「証言映像の文字おこし作業」を継続。この活動については「戦後75年高校生の挑戦」としてNHKで放映された。

その他の活動として、松川町竹灯籠祭り(10/2～4)ボランティア、「子ども食堂Hug」さんのフードパントリーボランティア、コロナ禍の困難な状況の中で地域福祉の維持・充実に取り組んでおられる松川町社協様への「感謝のメッセージ」贈呈(6月)、昨年台風19号で被害を受けた「大日向地区」(満蒙開拓のモデル村)支援のために集めた募金を南佐久郡佐久穂町へ満蒙開拓平和記念館館長と一緒に届けた。これらの活動が認められ、飯田南ロータリークラブ様より「青少年功労賞」、松川町より「松川町町長表彰」、内閣府主催令和2年度「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」に長野県より推薦され「内閣府特命大臣表彰」をいただいた。これまで支えてくださった関係するすべての皆様に感謝したい。

【野球部】松川町大島保育園の運動会にあわせ園庭整備を行った。

【吹奏楽部】松川吹奏楽団、松川中学校吹奏楽部と共にリモート演奏会を町内ケーブルテレビにて放送(来年予定)するための撮影を行っている。

IV: 新型コロナウイルスの影響で、例年4月・6月・9月・12月に行う「授業公開」が9/28と12/3の2回で、中学生のみを対象とした授業参観になった。今年度は、本校生徒の保護者や地域の方の参観の機会が設定できなかった。また、一昨年度から開催している中学3年生対象の「進路相談会」を12/3に実施し、授業参観・入学者選抜の説明・部活動見学等で、志望校決定に際して本校をさらに知っていただく機会とした。

V: 県立高校全校で実施している「匿名性を担保した学校評価」では、生徒・保護者・学校評議員・職員を対象にアンケートを実施。これらの結果を基に学校評価および次年度の学校目標の設定を行う。アンケートについては用紙からスマートフォンで行えるようにし、多くの方々に答えていただけるように試みた。